新春特別企画

笑顔輝く三原へ 2022

新型コロナウイルス感染症や自然災害により、市民生活や地域経済に大きな影響が生じた昨年。令和4年は、活気と希望、市民や子どもたちの笑顔があふれるまちをめざして、岡田吉弘市長と陶 範昭議長に今年の展望を聞きました。

未来へ向かってジャンプ!

教えてください!

令和4年の3つの質問

三原市議会議長
陶 範昭

三原市長
岡田吉弘

1 令和4年の抱負は?

コロナへの対応、災害からの着実な復旧と災害に強いまちづくりに取り組みます。コロナ対応においては、経済活動の正常化と感染対策をバランスよく推進することに今後も注視していきます。地域では行事の中止を余儀なくされ、コミュニティのあり方が変化していますが、地域の結束は防災や子育て支援につながることから、地域や地域活動をしっかりと支えていきます。災害からの復旧においては、復旧事業への注力はもちろんのこと、激甚化する災害を想定したインフラ整備の必要性について、国や県に声を届けていきます。議会運営においては、「市民との意見交換会の開催」「議会からの政策提言」「議員間の自由討議の促進」「積極的な情報公開」などに重点的に取り組みます。中でも各常任委員会で取り組んでいる「人口減少の抑制」、「ごみの減量化」、「農業の振興」をテーマにした政策提言は、今年9月の実現をめざします。

2 開かれた議会という視点から令和4年はどのような情報発信に取り組みますか?

賛否の結果だけでなく、議会でどんな議論がなされ、どんなことが決められているかという過程を市民の皆さんに知っていただくことが開かれた議会への近道だと考えています。昨年9月からは本会議の映像をYouTube(ユーチューブ)で配信することを始めました。コロナ禍で傍聴がままならない中、より多くの人にリアルタイムで情報を届けられる有意義な取り組みだと感じています。スマートフォンで気軽に視聴できるので、若い人たちにもっと議会に興味を持っていただくきっかけになることを期待しています。一方で、議員は今まで以上に発言に責任を持ち、さらに議論の質を向上させる必要があると考えています。今後は本会議だけでなく、委員会の映像を配信するなど、取り組みの拡充を検討していきます。

3 最も幸せを感じる瞬間は?

4歳の孫と過ごす楽しい時間や会話が私の癒やしです。早朝から自転車の練習にも付き合っており、自身の健康維持にもつながっています。

1 令和4年の抱負は?

昨年は、コロナの感染拡大や自然災害により、市民の皆さんもこれまでにないストレスを感じられたと思います。令和4年は、未来に希望が持てるよう、市の組織に横串を通した体制でまちの活性化に取り組みます。テーマは、「子育て支援と女性活躍」。女性の活躍を推進するため、放課後児童クラブなどの子どもの居場所づくりや、地域が子どもたちを見守る体制づくりに取り組んでいきたいと考えています。女性をはじめ多様な人材が活躍できることが市内外に伝わることで三原の活性化につなげたいと思います。さらに、デジタル化への取り組みをますます加速させます。例えばデジタル技術を活用して、災害時の被害状況を関係機関とリアルタイムで共有できる仕組みを構築し、災害時に迅速な対応ができるよう、防災面でもデジタルの力を発揮していきたいと考えています。

2 市の重要課題「人口減少」への対策は?

三原の魅力やその取り組みを市外に届けていく「シティプロモーション」と、「関係人口の創出」に力を入れていきます。シティプロモーションでは、三原の魅力をつくりたい・地域に貢献したいと活動している人たちの取り組みやその情報発信をもっと支援していきます。関係人口の創出では、昨年から始めた移住・定住ポータルサイト「すんでみはら。」を活用したデジタルマーケティングにより、市外の人が三原の何に魅力を感じているのかをしっかりと把握していきます。その魅力を広く伝えることで、「三原と関わりたい、三原で新しいことを始めたい」と感じる企業や団体、人を増やしていきたいと思います。こうした関係人口の増加が三原への移住を検討する人を増加させ、これを定住人口の増加につなげたいと考えています。

3 最も幸せを感じる瞬間は?

早朝ランニングをした後に、おいしい朝ご飯を食べる時が、最近の幸せです。